

学習指導改善調査研究事業

\* 県小教研 学習指導改善調査

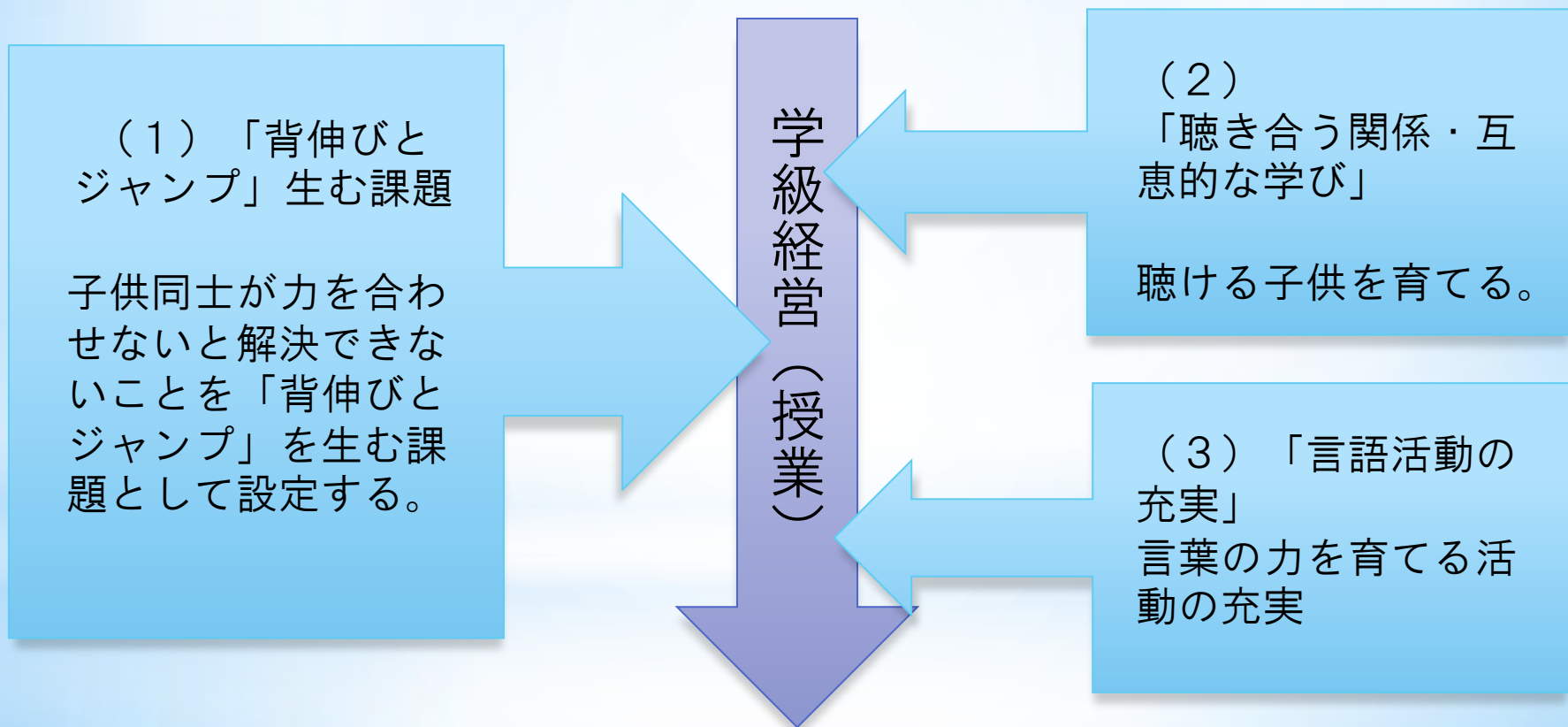
協力校としての取組

長岡市立黒条小学校

【校内研修主題】

# 個の学びが育つ授業を目指して

～協同学習の中で言語活動を充実し、  
思考力・判断力・表現力を高める～



思考力・判断力・表現力の育成

## 2 内容

もの（教材・  
学習対象）と  
の対話

他者（友達・教  
師等）との対話

3つの対話と「個の学び」

自分（考え・気  
持ち・生き方  
等）との対話

## 3つの対話の取り入れ方

### グループ学習では

1 授業において、友達と力をあわせなければ解決できない場面をとらえ、グループ学習の導入のタイミング、グループの作り方等を判断する。

2 グループ活動を行う。教師は、援助を必要とする子供のところへ向かい、共に問題を解決しようとする姿勢をもってしっかりと対応する。

3 グループ活動によって、グループ内の考えを一つにまとめない。子供一人一人が自分の考えをつくるように働きかける。

## 教師の仕事「聴く・つなぐ・もどす」の追求

### 「聴く」

子供に対応する教師の身体（立ち位置、視線）と言葉を見直し、教師自身が自分の身体を開いてしっかりと聴き、子供と響き合う

### 「つなぐ」

教師が耳を澄ませて子供の声を聴き、その考えを他の子供の考えとつなぐ。

### 「もどす」

授業を進めることばかり意識せず、子供の発言や学習の様子を見て、授業の中で立ち止まり、大切なことは、全体に戻して考えさせる。

### 3 方法

1 互いに日々の授業を気軽に開き合い、共に育ち合う教師集団を目指す

2 校内研修会を通し、教師自身の力量を高め、共に育ち合う教師集団を目指す

## \*教師集団の自律性と同僚性を育む

3 「県小教研学習指導改善事業協力校」として校内研修を通し、知見や実践の蓄積を行う

4 「自ら考え、探り、学ぶ研修」を目指し、自分らしい授業を追求する

## Ⅱ 県小教研 学習指導改善調査とのつながり

調査結果から当校の現状と改善事項

当校の子供の実態

- 必要な情報は選ぶことはできる
- △その情報に自分の考えを付け加え表現する
- △多様な考えを図、式、言葉で表現する

言語活動の充実

- 1 子供たちが意欲的に学習に取り組むための課題を工夫する  
※背伸びとジャンプの課題
- 2 意図的に学習活動の中に表現（聴く・話す・書く等）の場を位置づける
- 3 友達の考えの聴き方、発表の仕方、考えの書かせ方等、言語活動にかかわる基礎的な力を高めていく

学習指導改善調査でねらう力の育成

## 背伸びとジャンプの課題

### 国語

**言葉に敏感に繊細に、作品のおもしろさや楽しさを十分に味わえるよう、表現しながら作品に親しませる学習**

- ・ 国語では、ジャンプの課題は作りにくい
- ・ 言葉に敏感になるように、文の前後を繰り返し読ませる。
- ・ 登場人物の解釈についての分析ができる子供を育てるのではなく、本がきらいにならない子供を育てる

### 算数

**少し抵抗感のある課題を設け、既習内容（教科書レベル）を活かしながら、図、式、言葉を用いて、考えたり、考えたことを説明させる学習**

- ・ 2つの公約数→3つの公約数 を考えさせる
- ・ 平行四辺形の面積＝底辺×高さ→長さが書いていない図からどこが分かれば面積が求められるかを考えさせる

【子供たちが意欲的に学習に取り組むための課題を工夫する】

算数の場合

易しい課題



発表する授業  
△充実感が持てない

発言できる子

より高い課題に挑戦させる場の設定

前半 教科書レベルの内容に挑戦

一人1枚のワークシート

後半 より高いレベル（前半で学習した内容を活かしてできる発展問題）に挑戦

グループ1枚のワークシート



友達の考えの聴き方、発表の仕方、考えの書かせ方等、言語環境を整備する

わからないと聴かれたら、必ず答える

自分の分かる範囲で必ず答える

言語活動の充実



友達の考えを聴くこと

教師が聴く姿勢を大切にすること

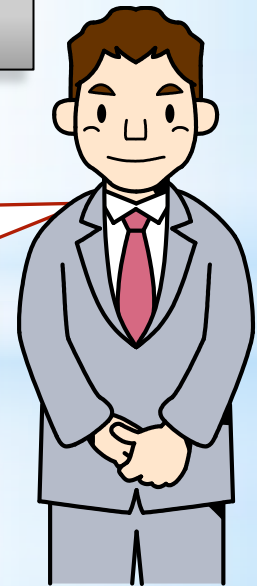
【意図的に学習活動に（聴く・話す・書く等）の場を位置づける】

グループ学習で話し合いをさせると、「発言できる子」が中心になって考えをまとめてしまい、「発言できない子」が話し合いに参加できない

教師がグループの考えを書く子を指名



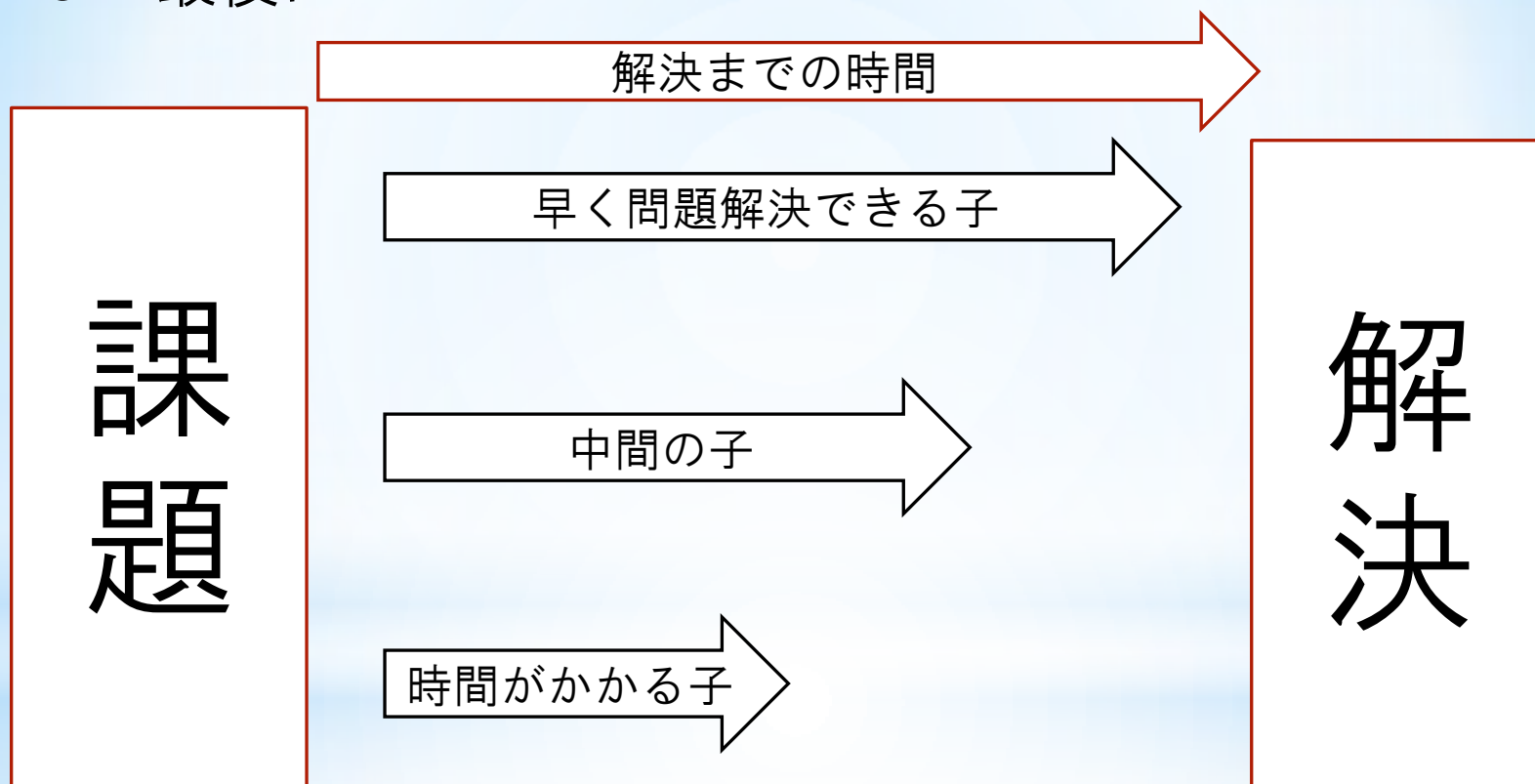
このグループは、  
〇〇さんが考えを  
書いてください。



これってどういうこと？

どの子供にも学びを保障する

## 6 最後に



より質の高い学びにつながる  
グループ学習の仕方

## これまでの取組から

課題が易しすぎると、「発言できる子」だけが「今、持っている力」だけで「分かっている」ことだけを発表する授業となり、できる子にとって充実感が持てなくなります。そこで、より高い挑戦させる場を意図的に作る必要があります。

算数で言えば、学習活動前半は教科書レベルの内容に挑戦させ、後半は一步高いレベルに取り組ませることを大切にしています。これが背伸びとジャンプの課題になります。

基礎レベルでは、一人1枚のワークシート、それを超えるレベルではグループでワークシート1枚で一緒に考えさせています。

また、日々の学習活動の中で、わからないと聴かれたら必ず答えることをマナーとし、聴かれたら自分のわかる範囲で必ず答えてあげる人間関係が築けるよう、学級経営や学習指導を大切にしています。言語表現を充実させるためには、表現力（話す・書く）に力点を置きがちになりますが、本来はまず「聴くこと」が大切であると捉え、子供同士が友達の考えにきちんと向き合い、自分なりに解釈し、表現につなげていくことが言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力の育成につながると考えています。そのような子供の姿を期待するため、まず教師自身がきちんと子供と向き合い、聴く姿勢をもつことを大切にしています。

さらに、グループ学習で話し合いをさせると、「発言できる子」が中心になって考えをまとめてしまい、「発言できない子」が話し合いに参加できないということが見られました。そこで、グループ学習にする際、意図的に教師が「このグループでは、〇〇さんが書いてね」と指名します。指名された子がうまく書けない場合は、「どうやって書くの?」「これってどういうこと?」などとグループの友達に聴きます。「発言できる子」は、相手にわかるように話すにはどうしたらいいか考え、わかりやすい言葉で説明しようとしています。どの子にも学びを保障することを大切にしています。

現在、子供たちの力の質を上げ、子供一人一人を参加させる場面を確保するためにグループ学習を取り入れていますが、しかし、学習活動をさせても、個人やグループにより解決の進度が違うため、早く解決できた子は遅い子、遅いグループを待つことが多くなってしまいます。そうすると、早く終わったグループはだらけてしまい、教室の学習のリズムが悪くなります。そこで、グループの活動の質を上げるため、だらける前に全体の交流を入れ、簡単な交流を踏まえてまたグループに戻す方法をとっています。そこで、学習の進度に差が出てきたようなら、一度グループ活動を止め、全体に返し、「今グループでどんなことが話に出てきたか、ちょっと紹介して?」などとグループで出た意見を紹介させます。このことで、考えが停滞しているグループの子供たちには考え方の方向が示され、グループ活動が活性化させるように配慮しています。

学習活動の終末に、全体交流をやらうとすると、どうしても全てのグループがある程度できるまで待たなければなりません。できた子供、できたグループが間延びしないよう、どのようにグループ学習を組み込んでいくか、より質の高い学びにつながるグループ学習の仕方について今後も考えていかなければならないと考えています。